

滋賀愛知の福祉作業所

タキイ種苗(株) CSR委員会 (技術指導員)

須江 淳起

京都農福支援に当たって参考にした作業所

- 自然栽培作業所ベジモ
自然栽培野菜宅配事業＋加工＋ベジモレストラン
民間資本の利用と医療との連携
- 滋賀県水耕栽培作業所マノーナ 茗荷村の哲学
水耕ホウレンソウを生協で知名度アップ 営業配達で売り上げ アップ
利用者がスキルアップしてスタッフに昇格 就労重視
施設外就労も自前で調達

自然栽培作業所 ベジモ

- 自然栽培農場 + 有機農業スクール + 福祉作業所 + 加工 + レストラン
- 愛知、栃木、広島で展開 広島はアミューズメントのプローバが出資
- 豊橋ハートケアセンターと連携：自然栽培と認知症予防

- 自然栽培 = 有機無農薬無堆肥：周年60品目 宅配と加工
- 宅配事業：支援会員1500人 購入会員500人
- 有機農業スクールは年20人
 - スクール卒業生は就農し協力農家に、ボランティアや支援会員に
- **利用者**は栽培、収穫、宅配ボックス箱詰め、加工に従事
- 規格外品は加工してレストラン利用と販売

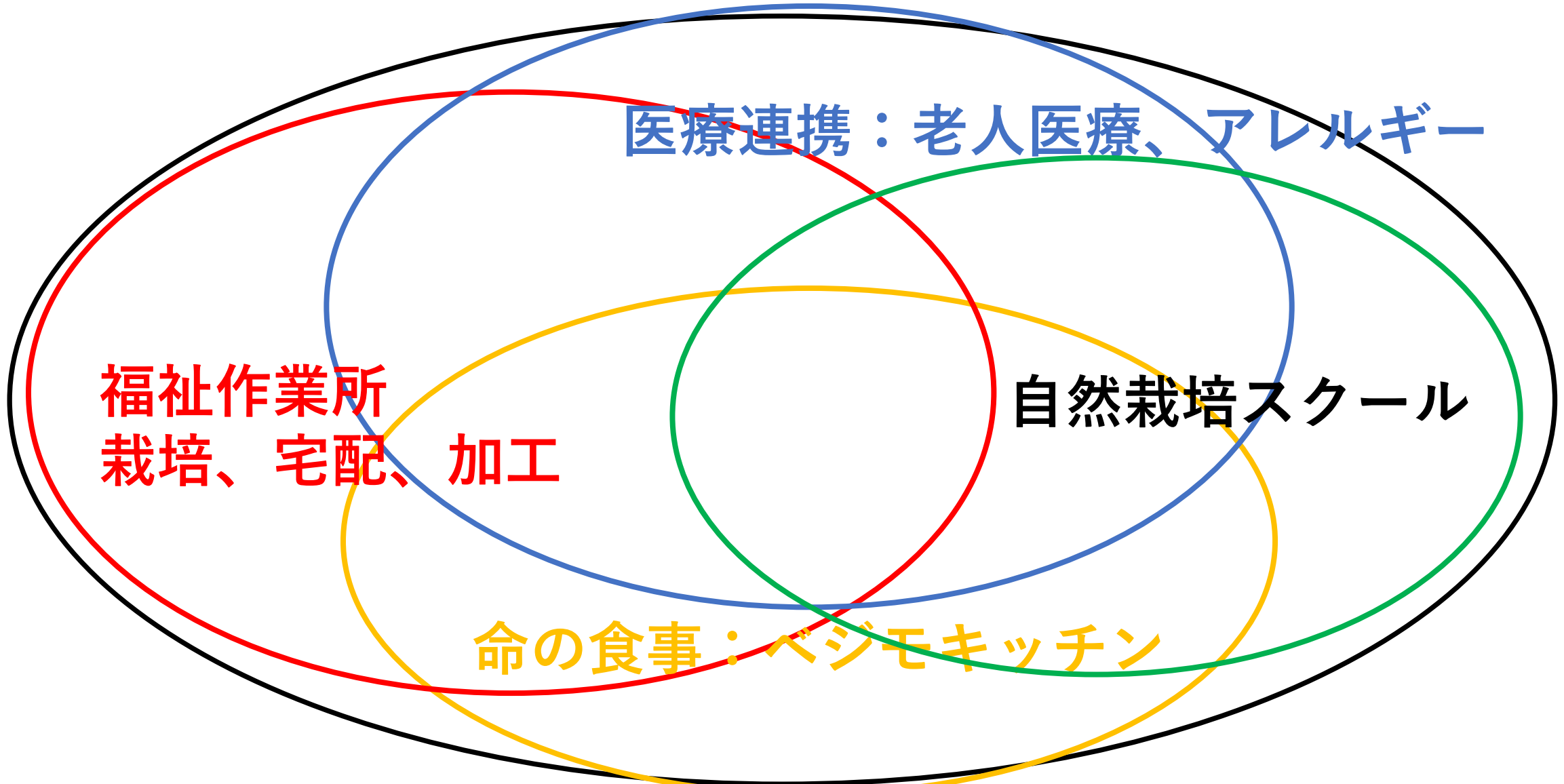
自然栽培作業所 ベジモ

医療連携：老人医療、アレルギー

福祉作業所
栽培、宅配、加工

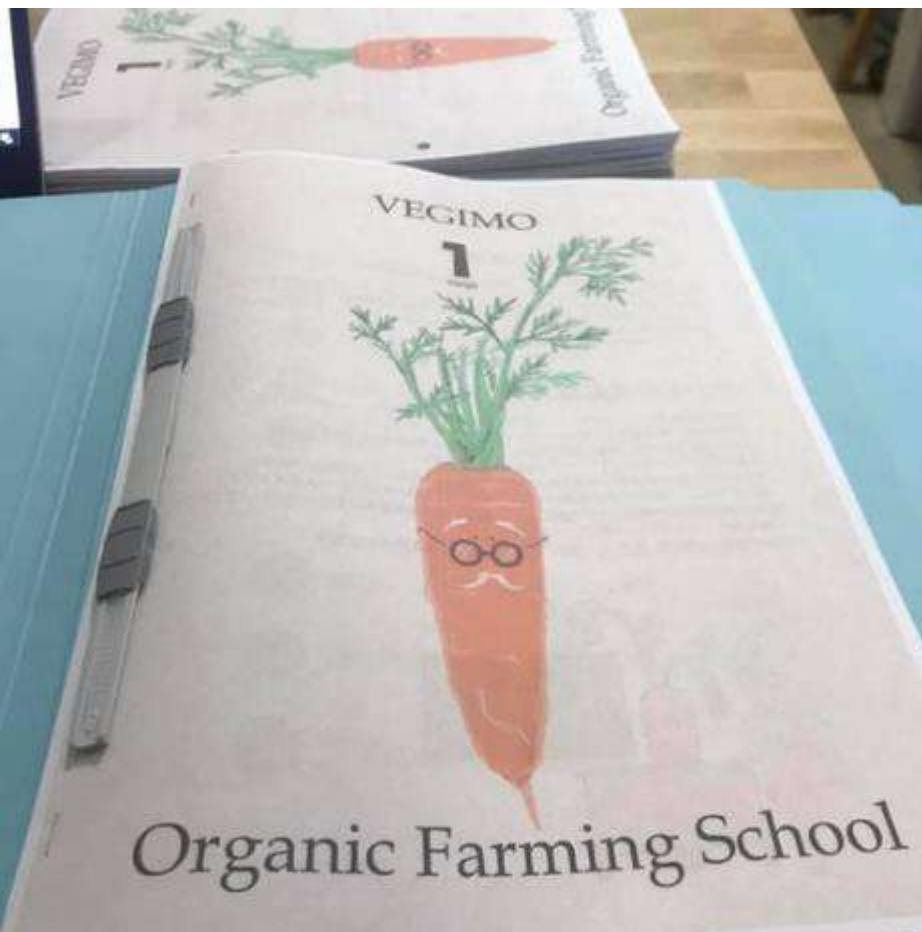
自然栽培スクール

命の食事：ベジモキッチン



ベジモ自然栽培スクール

毎年20名のスクール受け入れ 自営やボランティア、顧客に
8回4.4万円



自然栽培作業所ベジモ

自然栽培スクール



太陽熱養生



雑草も緑肥



バジルはソースに



エンサイは虫少ない



つるむらさき



自然栽培作業所ベジモ 秋冬

11月人参



白菜

人参



人参

小さ目だけど味が濃い



雪降りの人参



自然栽培野菜の宅配事業

- 自然栽培野菜しか食べれない人が沢山いる 化学物質に敏感な人たち
- 身土不二：近隣の野菜を届けたい 3事業所→50事業所で全国に
- ベジモ野菜セットはすべて農薬・化学肥料不使用、植物性肥料のみ少肥料栽培です。ご注文エリアに最も近いベジモファームから、収穫の翌日に直接、新鮮な野菜が届きます



自然栽培作業所 ベジモキッチン

- 自然野菜のランチが好評 コロナで休店しても弁当、デリカで
- **6次化：自然栽培野菜の完全利用 野菜食堂、デリカテッセン**
- 虫食いや形が悪くても美味しさと栄養はピカー 使い切る
- 安全な栽培と健全な食べ物の効能 利用者の精神安定



お酒もやさい、合うんです！
《ぐるぐる》
●ディナーメニュー一覧

ディナー
Dinner

ベジモ 弁当やデリカテッセン



ベジエ 弁当やデリカテッセン



ヴィーガンカレーレトルト



アヒージョ



ポタージュストック



美輪湖 マノーナファーム

- 社会福祉法人 美輪湖の家大津が母体 利用者300人 茗荷村
- 大津市のB型作業所
- 周年水耕ホウレンソウ栽培（施設は補助金獲得） 生協出荷でブランド
- 専門家に頼らずナッパーランド+苗テラスを使いこなす
- 20人のB型と就労移行7名の施設 8年で15名程就労
- A型施設資生園に就労 マノーナでスタッフに昇格 他



水耕ホウレンソウ(18a)と露地野菜 (30a)

1：全ての利用者がホウレンソウ作業で役割を持つ

・播種担当、育苗担当、収穫担当、調整担当、露地野菜担当

→内部昇格でホウレンソウ補助指導員に昇格 A型や農家に就労

2：2020年露地野菜はスナップエンドウ、オクラ、万願寺、ナス等
20a栽培 オクラは1.2万袋収穫

3：2021年は30aに増反予定,サツマイモ、インゲン等秋の出荷を増やす



素人でも果敢に挑戦

- 曲がっても平気



マノーナの水耕ホウレンソウ

- ホーレンソウは生協販売は減らして利益率良い営業戦略
- 販売は積極的な営業、配達

スーパーの地場コーナー請け負い、ホテル、飲食へ



マノーナファームの施設外就労

施設外就労でキュウリ農家やホウレンソウ農家で頑張る
慣れたら暑くても一所懸命 パートに負けない収量
行先は自前で探して交渉 スタッフは皆ジョブトレーナー
施設外就労から本格就職の道が開ける



滋賀県の福祉 先進的な福祉県

- 糸賀一雄氏：1946年近江学園(知的) 90名
1963年びわこ学園(重度) 387名
「この子らに光を」 無財の七施 眼施：優しい眼差し
 - 田村一二氏：近江学園副園長
→茗荷村 ソーシャルファーム 障がい者と暮らす村 150人
ハンディを持つ人達と共に生きる村民家族（里親）
- 村是①賢愚和楽 差あって別なし
②自然随順 衣食住とともに自然に添って生きる
③物心自立 束縛されない心構え
④後継養成 流汗労働 温かいまなざしを増やす思想

茗荷と福祉

お釈迦様の弟子の一人、周利槃特（しゅりはんとく）のお話があります。

インドのお話です。聡明な兄の勧めで周利槃特はお釈迦様の弟子となります。周利槃特は自分の名前さえも覚えられず、釈迦の説教も理解せず出来る仕事もありませんでした。彼は今で言う知的障害者でした。

お釈迦様は「好きなものは何か？」と聞きました。周利槃特は「掃除が好きです。掃除ならできます。」と答えました。

お釈迦様は「**自らの愚を知る者は真の知恵者である**」と言い、周利槃特に一本のホウキを与え、「ちりを払い、あかを拭わん、と唱えながら、毎日、隅々まで掃除をするように」と言いました。

「汚れが落ちにくいのは人の心も同じだ」「汚れても掃除を続けることが大事なこと」とお釈迦様の考えを理解し、悟りを開いたと言われます。

十六羅漢という、仏教において特別な聖者の中の一人になりました。

周利槃特の死後、お墓に生えた草に茗荷と名付けられたそうです。